

2018年度 事業計画書

(自) 2018年4月 1日

(至) 2019年3月31日

| | | |
|------|---------------------------------|----|
| 第一章 | 法人を取り巻く情勢 | 7 |
| 第二章 | 法人の取り組み課題と事業計画骨子 | 10 |
| 第三章 | 実施事業と業務・管理運営計画 | 13 |
| 第1節 | 2018年度実施および市町村等からの受託事業 | 13 |
| 第2節 | 2018年度法人業務予定 | 14 |
| 第3節 | 組織機能 | 15 |
| 第4節 | 会議開催計画 | 16 |
| 第5節 | 委員会の構成および計画 | 17 |
| 第四章 | 人事・配置計画 | 18 |
| 第1節 | 配置図 | 18 |
| 第2節 | 職員配置計画 | 19 |
| 第五章 | 地域交流計画 | 20 |
| 第1節 | 実習生等の受け入れ | 20 |
| 第2節 | 講師等派遣予定 | 20 |
| 第3節 | 地域行事参加・交流計画 | 20 |
| 第六章 | 事業分野別の計画 | 21 |
| 第1節 | あかね保育園事業計画 | 21 |
| 第2節 | 企業委託型保育サービス事業 あゆみ事業計画 | 25 |
| 第3節 | 奈良市地域子育て支援センター「PEACE」事業計画 | 26 |
| 第4節 | こがねの里居宅介護支援事業所 事業計画 | 28 |
| 第5節 | こがねの里ホームヘルプセンター 事業計画 | 29 |
| 第6節 | 介護予防サイクルハウス・あこだ 事業計画 | 29 |
| 第7節 | こがねの里デイサービスセンター 事業計画 | 32 |
| 第8節 | 小規模多機能ホームあかりの家 事業計画 | 33 |
| 第9節 | 高齢者生き生きグループリビングあやめの里 事業計画 | 35 |
| 第10節 | こがねの里入所部門事業計画 | 36 |
| 第11節 | 短期入所生活介護（ショートステイ）事業計画 | 36 |
| 第12節 | 特別養護老人ホーム 事業計画 | 38 |

社会福祉法人秋篠茜会の理念

1. 全ての児童、全ての高齢者、全ての障害者、児の基本的人権を何よりも大切にします

日本国憲法及び児童福祉法、老人福祉法、障害者福祉関連法の理念に沿って、一人一人の人格を尊重し、施設利用者が人として心身ともに健全に成長し、あるいは日常生活や社会活動に参加できる様全力を尽くして援助し、励まします

2. 法人及びその事業は民主的に運営します

幅広い分野から理事及び評議員を選出し、利用者や職員の意見を尊重し、「家族会」「保護者会」「よくする会」とも力を合わせ、地域に親しまれる使いやすい施設を目指します

3. 人間尊重の立場に立った保育および介護を実践します

職員はやさしく温かく謙虚な姿勢で児童、高齢者、障害者に接し、児童の純真な心をいつくしみ、高齢者の生涯に学びながら、高い人間尊重の精神をもつ職員集団をめざします

4. 福祉水準の向上に努め、医療との連携をつよめます

全国の保育運動、高齢者福祉の運動に学び、職員が働きやすく、質の高い保育と介護が提供できるよう努めるとともに、地域の医療機関とも連携して利用者の命と健康を守ります

5. 児童福祉および高齢者福祉の地域センター的な役割をはたします

福祉増進の責務を負う国と自治体から必要な支援を受けながら、地域と一体となった模範施設となり、福祉の地域センター的な役割をはたすとともに、子どもと子育て世代、そして高齢者の世代が共存し交流し、安心して住み続けられる街づくりを進めます

こがねの里の介護・福祉宣言

特別養護老人ホーム こがねの里

2014年1月15日改定

こがねの里は、「住み慣れたまちで、いつまでも安心して暮らし続けたい」という住民の願いから、草の根運動がみのった特養ホーム「最後のよりどころ」です。

この運動が始まった1995年頃は、高齢化社会を迎えて、奈良市のゴールドプランがつくられたものの、特養ホーム整備は進まず、待機者は増える一方でした。

高齢者とその介護者の苦しみを何とか支援できる施設をつくろうと、6年をかけ建設用地の購入資金を集めてこがねの里が建設されました。

政府はこの間、病気や高齢期の諸問題について、公的責任を大幅に縮小し、国民負担を増額する介護保険制度を導入しました。

このことから、特養ホームの利用者層が変わったと言われていますが、本当に介護の必要な人を排除することは許されません。今後とも利用者中心の介護をめざし、個性を重視し、科学的根拠を持った介護サービスが展開できるよう努力し、利用者はもとより、家族と地域の皆様に信頼される介護に努めます。

利用者が、人生の最後のステージまで輝くことができるよう、職員の介護・福祉に関する専門性と質を高めます。

私たちは、建設に寄せられた4500人を超す皆様の心を大切にし、法人の5つの理念を具体化し、医療・福祉の連携した、安心して住み続けられる街づくりに、これからも地域の皆様と共に歩み続けることを宣言します。

私たちは、地域に根ざした、利用者のよりどころとなる施設づくりに努めます。

（１）利用者の尊厳を第一に考え、利用者の立場に立った介護・福祉をめざします。

自分の家族だったら、自分だったらどうしたいかを考え、利用者の立場に立って介護します。

様々な人生経験を重ねられた利用者のお話に耳を傾け、生きた歴史を学びます。人生の先輩としての尊厳を守り、接遇マナーを重視します。

（２）高齢者が、安心して暮らせる街づくりのため、地域のネットワークづくりにとりくみます。

地域住民の熱い思いでつくられたこがねの里は、高齢者のみならず、住民の生活を支えるために必要不可欠な存在です。地域福祉発展の中心的な役割を担い、情報を発信し、幅広い世代が交流し、支え合える地域を確立できるよう努めます。

（３）明るく、仲間を思いやる、働きがいのある職場づくりを大切に、自己・相互の点検をしながら、自発的な学習に努め、専門性を高めます。

常に創意・工夫をこらす積極的な姿勢で、自己研鑽に努めます。法人としても、研修の機会の保障に努め、安心・安全の施設づくりに努めます。

あかね保育園の目標

(1) あかね保育園のめざすもの

○子どもが、異年齢や集団保育の中で生き生き元気に過ごせる保育園

子どもの気持ちをしっかりと受け止め、あかね保育園を自分の居場所と認め、安心して過ごせる保育園であること。そして、子ども達がまた、明日も来て遊びたいと心から思える保育園を目指します。

○保護者が安心して生活し、子育てを通して仲間づくりができる保育園

社会的に子育てをする条件は、大変厳しい状況にあります。まして仕事をしながらの子育ての両立は、大変なものと考えます。その大変さを受け止められる職員集団であり、保護者同士が交流し合える場を目指します。

○安心して子育てができ、子どもからお年寄りまで安心して暮らせる地域を目指し、ともに手をつないでいける保育園

散歩で出会う地域の様々な方との触れ合いや、高齢者との自然な触れ合いを通して、子ども達や保護者、保育者がともに育ち合える保育園を目指します。

○職員が広い視野を持ち、保育者集団の中でお互いを高めあうことができる保育園

保育は、保育士だけではなく、給食を作る栄養士や調理員を含めた職員集団は、子どもを取り巻く状況や保護者の働く状況、家庭の状況等にも心を配り、保育向上に努めます。

あかりの家福祉宣言

1. あかりの家は「安心できるもうひとつの家」を目指します。

すべての利用者様、家族様の思いや願いに寄り添い、‘ほっとできる家’‘自分の家にいるよう’な安心感をもって、過ごしていただけるようにします。

2. あかりの家は「笑顔あふれる家」を目指します。

一人ひとりの個性を尊重し、共に笑い、悲しみは受け止め分かち合い、一緒に過ごす時を豊かにしていきます。

3. あかりの家は「質の高い介護」を目指します。

職員は、‘和’を重んじ、職員間の連携を深めます。また、学習の場に積極的に参加し、専門職としての技術を磨き、知識を深める努力をします。さらに地域との繋がりを大切に‘質の高い介護’が継続して行えるようにします。

あこだ福祉宣言

1. 利用者様の「いつまでも自分のことは自分でしたい」という願いを守ります。

利用者様の介護予防の意欲を尊重し、励ましながら、寄り添いながら全力で支援します。

2. 地域から必要とされる介護予防施設を目指します。

医療・関係機関、自治体と連携し、地域の介護予防・健康づくりに貢献するとともに、地域での高齢者福祉の窓口としての役割を果たせるよう努めます。

3. 笑顔のあふれる働きがいのある職場づくりを目指します。

職員は、専門職としての知識を深め、技術の向上に励み、自己研鑽を怠りません。またお互いを思いやり、明るく、健やかに勤められる職場づくりを大切にします。

第一章 法人を取り巻く情勢

安倍政権は発足以来、強行してきた立憲主義破壊の政治の仕上げとして、憲法9条改悪をめざし戦争できる国づくりへ国会での発議を目指しています。反戦・平和・基本的人権の尊重を定めた9条25条を中心に憲法の大きな危機を迎えています。アメリカファーストを掲げ、核兵器の近代化をうたい、日本に武器購入を押し付けるトランプ大統領にへつらい、けしかける安倍首相の異常さも今後の日本の平和と社会保障に重大な影響を及ぼしかねません。一方で平和と立憲主義を求める国民の声が高まり、主権者としての自主的な国民運動を生み出し、政治の転換を求めるかつてない共同が広がっています。先の総選挙では野党共闘への逆流に抗し、市民と立憲野党の共闘が進められ、その後も安倍政権のもとでの9条改悪阻止や国政私物化問題、原発0や働き方改悪への共同した取り組みも広がっています。国際的には核兵器禁止条約の制定、被爆者や原水禁運動と共同して運動を進めてきた「I C A N」のノーベル平和賞受賞は希望でもあります。

安倍政権は2018年度予算案で軍事費を6年連続で増額し、過去最大の5兆1,917億円とし、社会保障は自然増分の1,340億円を削減し、GDPに占める社会保障支出の割合が3年連続で低下しています。このようなことは日本中に医療崩壊を引き起こした小泉政権時にもなかった異常事態です。そのもと一層の格差と貧困が拡大しています。さらに生活保護の160億円の削減は生活困窮者をはじめ全国民に影響を与えるものです。

診療報酬は1.19%の引き下げ、介護報酬は国民世論や介護事業者の運動のなかで0.54%のプラス改定となりましたが前回の4.48%のマイナス改定で介護事業所は経営悪化し廃止・休業・倒産が過去最多となるなかで今日の困難を打開できる水準ではありません。また、適正化の名のもとに0.5%分を引き下げるとしています。ひきつづく生活援助の引き下げや利用制限、規制緩和の名のもと新たな生活援助の担い手を低コストで養成し介護報酬も大幅に引き下げています。通所介護は、大規模は大幅に、通常規模でも4.67%引き下げており、サイクルハウスあこだへの影響も甚大です。介護職員の処遇改善にも極めて不十分な改定です。「我が事・丸ごと地域共生社会」についても「地域共生」の名のもとに公的責任を「自助」（自己責任）・「互助」（たすけ合い）に置き換えることがねらいです。さらに国の交付金へのインセンティブの導入で「自立支援重度化防止」の名のもとに自治体に介護給付の削減を競わせようとしています。

財務省主導のさらなる「軽度者」の保険はずしや給付削減、ケアプランの自己負担化は国民的な運動で先送りされていますが今後改悪が狙われています。今年度は高額介護サービス費の引き上げ、一部3割負担の導入や2号被保険者の総報酬割による保険料の引き上げ等が実施されます。

子ども・子育て支援新制度が実施され、少子化対策としても位置付けられていますが、現実には安心して子どもが産めない状況が続いています。少子化にも関わらず、労働の非正規化と貧困の拡大、共働き家庭の増加などのもと待機児童は増えています。高まる保育の需要

に対して規制緩和と市場化で企業参入の施設を増やそうとしています。また、一部企業拠出金を増やし、待機児童対策として認可保育園への支援を進めるとしていますが同時に人員や面積などの基準について、国の最低基準より手厚い市町村の独自基準の引き下げを都道府県主導で促す制度の導入を決定しました。これは安全安心、質の高い保育を求める保護者国民の願いとは逆行するものです。保育の無償化は3～5歳児は2020年度からとし5歳児のみ2019年度から先行実施するといっています。国民の声に押されて認可・認可外を問わず対象としますが認可外の補助額には上限を設けるとしています。

0～2歳児については無償化の対象は住民税非課税世帯に限定する方針で対象は限られます。財源を2019年10月実施予定の消費税10%への引き上げの増収で賄うとしています。本末転倒です。保育士等の処遇改善についても不十分なものであり制度に制約のあるものとなっています。住民無視の奈良市の幼保一元化とこども園化にも市民の反対の声が高まっています。保育の公的責任を求めてともに改善を求めていきましょう。

生活保護、年金、医療などと合わせ、「権利としての社会保障」から自助と互助、市場主義に改悪し公的責任を放棄しようとしています。

「地域包括ケア」についても医療、介護、生活支援、予防、すまいを整備し安心のネットワークをつくるとしています。自助や互助が強調され、財政的裏付けや公的責任が後退し、住民本位の「地域包括ケア」からは程遠いものになりかねません。

私たちのめざす地域包括ケアは、公的保障のもと、無差別平等を原則にした「誰もが安心して住み続けられるまちづくり」です。住民自治を土台に地域の実態・要求に根ざした「参加型」でつくりあげるものであり、私たちもそのためにおいおいに参画していきます。

憲法9条守れの幅広い国民の共同、保育・介護・社会保障守れ、沖縄の新基地阻止、原発なくせ、消費税増税反対など幅広い国民的共同と運動が展開されています。平和と福祉充実へ、まさに激動、せめぎあいの時代といえます。憲法を学び守る大運動を進めましょう。3,000万人署名の目標達成に向け地域の方々とともにしっかり学習し見極め、私たちの希望実現のために参加していきましょう。

社会福祉法人をめぐる情勢も、社会福祉法の改定が実施され、国の責任を曖昧にしながら、社会福祉法人に「地域公益活動」を義務付けるものとなっています。社会福祉法人はもともと憲法25条を実現する福祉事業を行う法人として定められ、国民の福祉の充実に大きな役割を果たしてきました。今日、「格差と貧困」の進行のなかでその役割に国民の期待が高まっていますが公的資金も出さず法人まかせにすることは憲法25条の国の責任を後退させるものにほかなりません。

そもそも「格差と貧困」を拡大しているのは安倍政権の政策です。私たちはこれまでも社会福祉法人減免や法人独自減免はじめ「地域公益的な取り組み」を行ってきました。これからも公的責任の肩代わりではなく、制度の狭間にある人々や制度から除外された人々の生存権・基本的人権を守る事業として位置付け、地域要求に応え、制度の創設や拡充改善につなげるものとして取り組みます。

こういう情勢のもとで、民医連加盟の社会福祉法人として、憲法 25 条を守り国民の基本的
人権や生存権を守ることに、極めて非営利性、公共性の高い法人としての 2 重の役割があり
ます。まさに法人理念の実現への努力であり、各施設事業の宣言・目標実現への努力こそ求
められています。そこに地域住民の強い期待があることは言うまでもありません。私たちの
目標は地域住民の幸せであり、職員のいきがい幸せの実現です。

民医連が提起する介護活動の 2 つの柱、「貧困と格差、超高齢社会に立ち向かう無差別平
等の介護」「安全、倫理、共同の営みを軸とした総合的な介護の質の向上」は私たちにとっ
ても強化すべきものです。

社会福祉分野の専門家集団として、地域の実態と困難をつかみ、現行制度や改悪案の問題
点を調査や事例を通じて社会的に明らかにし福祉の再生と拡充に向けた建設的提案を国・自
治体に行っていくことも重要です。

地域住民との共同で「高齢者・子どもにやさしいまちづくり」「だれもが安心して住み続
けられるまちづくり」の前進への事業展開と運動を進めることが当法人の存在意義を地域・
行政にもアピールし「市場営利化」の論理をはね返していく力ともなるものです。

中長期計画の実現で、地域要求に応え職員を守り経営の発展を進める経営構造を全役職員
参加の経営を進め築いてきました。介護職員確保の困難のなかで一部ユニットの閉鎖も余儀
なくされていますが職員確保に努力しフルオープンで地域要求に応え経営安定させていき
ましょう。

地域交流室をはじめ、この間の施設整備と施設体系を活かし、地域の要求に応じて地域へ
の貢献をさらに進めていきましょう。地域の課題は山積みです。地域の方々と地域の福祉力
を高めながら行政の公的責任も求め、元気なあたたかいまちづくりをともに進めましょう。
地域に深く根ざして、地域とともに、草の根から地域密着の事業と運動をさらに前進させま
しょう。

第二章 法人の取り組み課題と事業計画骨子

1. 法人の基本的立場

非営利・公益性を貫き法人理念「人権尊重」「人間尊重」のもと、安全と倫理を軸とした専門性と協働・連携を発揮した総合的な実践を通じて、「安心」と「笑顔」あふれる施設、住み慣れた地域でその人らしい暮らしの実現に寄与する法人を地域とともに目指します。

2. 2018年度事業計画の目標と取組

(1) 実施事業の目標と事業展開

- ① 保育、介護、障害福祉制度改定踏まえて機能強化を図りながら、法人内外との連携で多様なニーズに応えていきます。介護分野では特に認知症のある高齢者や中重度の介護を必要とする高齢者に対するケアの強化に取り組みます。
- ② 多大な支援と大きな期待のもと整備された施設、事業所を最大限活用していきます。一層の期待が高まる特別養護老人ホームについて併設ショートステイも含めた課題を克服し、安定的な運用に取り組みます。
- ③ 中長期的な視点に立って新たな挑戦も含めた事業展開、再編を検討していきます。とりわけ、通所介護サービスについては検討・研究の場を新たに設けて具体化します。
- ④ 社会保障制度へのアクセス保障の観点で、アウトリーチ^a体制およびニーズに対応する事業展開について検討・研究していきます。
- ⑤ 法人間の事業連携や協働の具体化について継続して取り組みます。
- ⑥ 自己財源を活用した低所得者等の負担軽減施策を行います。
 - ・社会福祉法人減免の実施
 - ・食事、居住費の独自減免施策の実施
- ⑦ 介護、保育等に関する講座や学習会、シンポジウム等を他団体と協力して開催してきます。

(2) 必要な職員確保対策に引き続き取り組みます。

- ① 労働条件、求人条件等の見直しを行います。
- ② 求職者との接触機会拡大について引き続き取り組みます。
- ③ 実習生や職場体験、事前職場見学を受け入れます。
- ④ 助成金、補助金や独自の助成制度を活用します。
- ⑤ 他法人との連携、協働で介護初任者研修・実務者研修講座への講師派遣や設備の無償または安価での貸与を行います。

^a 英語で「手を指しのばす」という意味。自発的に援助を求めてこない利用者又は求められない利用者に対するアプローチの方法。地域に積極的に出て対面し潜在的なニーズを表に出せるよう援助して行くことが医療、福祉の現場で求められている。

(3) 安全と倫理を軸とした総合的な実践と質の向上に取り組みます。

- ① 職員の専門性向上のため、各種資格取得の奨励や専門領域研修の派遣により知識・の維持に取り組みます。
- ② 法令順守確立のための諸規程の整備や見直しを引き続き進めるとともにヒヤリハットや事故発生事例、他事業所などの進んだ実践を学び教訓化・共有します。
- ③ 事故発生、危機管理対応方法について指針・マニュアルなどの諸規程の見直しと充実を図ります。
- ④ こがねの里においては、事故防止と感染症予防に関する委員会を「こがねの里安全管理委員会」として統合して一元的な管理運営を行います。
- ⑤ 内外からの意見・相談内容について真摯に受け止め、第三者の意見等も踏まえ改善に取り組みます。
- ⑥ 保護者会、家族会、運営推進会議などとの協議を定例開催し要望・意見の聴取を行い質の向上に努めます。

(4) 事業の継続と発展を支える科学的民主的管理運営と提供体制強化に努めます。

- ① 定款および定款細則に基づき評議員会（定時1回、臨時1回）、理事会（年3回）を定例開催します。常勤役員・管理者会議は月2回定例開催します。
- ② 事業活動と経営を正しく認識できる仕組みづくりと改善を行います。経理会議を毎月開催し、社会福祉法人の経営指標などを活用するとともに、「わかりやすい経営資料」づくりに努めます。
- ③ 管理職と事務職員による事務部門（局）の会議を定例化します。事業所での窓口で利用者・ご家族、保護者と関わり、また他の福祉専門職とともにチームとして福祉実践に関わることを通じて、総合的な事務職集団を目指します。
- ④ 職責者については四半期ごと、全職員については年1回の事業活動・経営方針の意思統一を図るための研修会議を開催します。
- ⑤ 業務改善やコスト見直しの検討に必要となる各種データを蓄積し情報共有して改善を目指します。

(5) 事業活動目標と自己実現要求を統一する人材育成と職場づくりに取り組みます。

- ① 事業所ごとに委員を選出し教育研修委員会を毎月開催し、教育・研修企画を具体化します。
- ② 管理者・職責者研修を年3回実施、必要に応じて新任職責者研修を開催します。
- ③ 職員教科書を活用し法人理念・宣言や社会人としての基本を意識して学習・研修を企画していきます。
- ④ 年代別研修を複数回開催するとともに新入職員研修も必要に応じて複数回開催します。
- ⑤ 学術運動交流集会は福祉を取り巻く情勢や社会問題などを学び、事例発表などによる実践の共通理解を深める機会とします。

- ⑥ 専門的、分野別研修は横断的な委員会などで具体化を図るとともに、外部研修について可能な限り研修機会として位置づけ参加派遣、推奨していきます。
- ⑦ 2017年度に実施した職場診断アンケート結果を分析し、職場づくりに活用していきます。
- ⑧ 職場会議や新入職員研修など研修で活用できる制度や自主共済、公的制度の周知と情報提供を行っていきます。

(6) 経営基盤の安定と強化を図ります。

- ① 国庫補助金特別積立金取崩額を除外した経営評価により適正水準、実態把握を行い、経営基盤の強化と生活保障に必要な利益確保を目指します。
- ② 事業継続に必要な財産の計画的蓄積を行っていきます。
- ③ ②を前提に社会福祉事業、公益的事業への投資財源の確保を目指します。
- ④ 施設、設備更新や充実を具体化し計画的に実施します。

(7) 地域福祉、社会福祉の向上に向けた活動に取り組みます。

- ① 地域の子だて家庭等への支援や相談、情報提供を行っていきます。
- ② 地域の子ども等との交流や介護や保育体験、講師派遣に取り組みます。
- ③ ボランティアや実習生が活動しやすい環境整備を行うとともにニュース発行など情報発信をしてきます。
- ④ 地域の防災活動への支援や地域住民との交流、行事などに参加するとともに講演会・研修会なども企画開催していきます。
- ⑤ 熱中症予防調査など地域の見守り活動に取り組みます。
- ⑥ 地域の会議や活動への場の提供として地域交流室などを開放します。

(8) 社会保障制度の充実、平和を守る取り組みを推進します。

- ① 労働組合にも共闘を求めながら社保平和委員会を中心に横断的、総合的に活動を前進させます。
- ② 日本国憲法を守る立場で幅広く個人・諸団体と連携・協力しながら取り組みや運動に関わっていきます。
- ③ 権利としての社会保障制度を守り拡充させる運動に積極的にかかわっていきます。

第三章 実施事業と業務・管理運営計画

第1節 2018年度実施および市町村等からの受託事業

| 種別 | 事業名 | 事業所名 | 定員など |
|------|--|-------------------------------------|---------|
| 第1種 | 特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設) | 特別養護老人ホームこがねの里 | 85名 |
| 第2種 | 老人デイサービスセンター (地域密着型通所介護) (第一号通所事業・奈良市) | こがねの里デイサービスセンター (特別養護老人ホームこがねの里) | 18名 |
| 第2種 | 老人デイサービスセンター (通所介護) (第一号通所事業・奈良市) | 介護予防サイクルハウス・あこだ | 30名×2単位 |
| 第2種 | 老人短期入所事業 (短期入所生活介護) (介護予防短期入所生活介護) | 特別養護老人ホームこがねの里 | 25名 |
| 第2種 | 老人居宅介護等事業 (訪問介護) (第一号訪問事業・奈良市) | こがねの里ホームヘルプセンター | |
| 第2種 | 障害福祉サービス (居宅介護) (重度訪問介護) (行動援護) | こがねの里ホームヘルプセンター | |
| 第2種 | 小規模多機能型居宅介護 | 小規模多機能ホームあかりの家 | 25名 |
| 第2種 | 保育所 | あかね保育園 | 120名 |
| 第2種 | 地域子育て拠点事業 | 奈良市地域子育て支援センター「Peace」 | |
| 公益事業 | 居宅介護支援事業 | こがねの里居宅介護支援事業所 | |
| 公益事業 | 企業委託型保育 | あゆみ保育 | |
| 公益事業 | 高齢者生活共同住宅 | 高齢者生き生きグループリビングあやめの里 | 10名 |
| 受託事業 | 介護保険要介護認定調査 | 特別養護老人ホームこがねの里 こがねの里居宅介護支援事業所 | |
| 受託事業 | 予防プラン作成 | こがねの里居宅介護支援事業所 | |
| 受託事業 | 障害福祉移動支援 | こがねの里ホームヘルプセンター | |
| 受託事業 | 病後児保育 | あかねほっとルーム「こぼと」 | |
| 受託事業 | 延長保育事業 | あかね保育園 | |
| 受託事業 | 一時預かり | 「ひよこルーム」(Peace内) | |

2018年度は上記を基本に事業を行います。介護予防・日常生活支援事業（介護予防通所介護相当サービス・訪問介護相当サービス）のみなし指定の効力が2018年3月31日で失効^bすることに伴い、2018年4月から保険者ごとに行う独自サービスの指定申請を行うこととなりました。三つの事業所で実施していたそれらのサービスは奈良市独自サービス（訪問サービス、通所サービス）の新規指定を受け継続して実施します。

第2節 2018年度法人業務予定

2018年

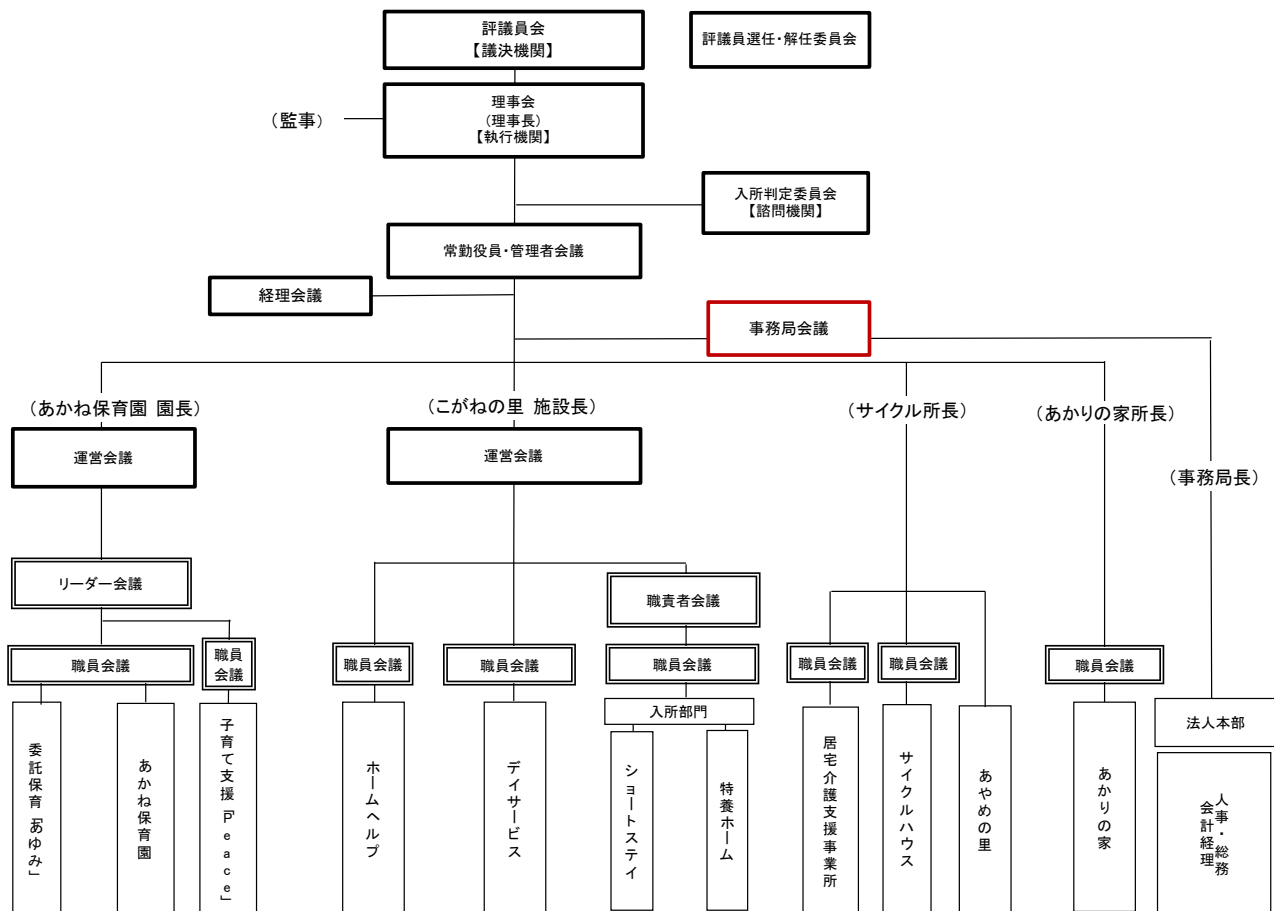
- 4/2（月） 新入職員研修（1回目）
- 5/12（土） こがねの里入居者・家族の会総会
- 5/14（月） 公認会計士決算調査（2017年度決算調査）
- 5月 法人監事監査
- 5/26（土） 第10期第4回理事会
- 6/17（日） 奈良民医連総会
- 6/23（土） 特別養護老人ホームこがねの里を良くする会総会
- 6/24（日） 定時評議員会
- 6月 新入職員歓迎会
- 6月 公認会計士残高調査（2017年度決算残高調査）
- 8月 第1回法人職責者会議・研修
- 10月 こがねの里秋祭り
- 10月 新入職員研修（2回目）
- 11月 西大寺北地区防災訓練
- 11月 公認会計士上半期調査（2018年度上半期経営調査）
- 11月 第2回法人職責者会議・研修
- 11月 第10期第5回理事会

2019年

- 12月 学術運動交流集会
- 2月 第3回法人職責者会議・研修
- 3/16（土） 第10期第6回理事会
- 3/24（日） 臨時評議員会

^b 介護保険の予防給付が市町村事業に移行したことによる。みなし指定効力により奈良市以外（通常の実施地域外）の利用者を例外的に受け入れる形でサービス提供が行えていたが、保険者ごとの独自サービス指定となるため、奈良市以外の保険者からの指定を受けることにより、その市町村が通常の実施地域となり、例えば送迎サービス等の実施応諾義務が発生する（正当な理由による拒否が不可能になる）。

第3節 組織機能



| | 月 曜 日 | 火 曜 日 | 水 曜 日 | 木 曜 日 | 金 曜 日 | 土 曜 日 | 日 曜 日 | 随 時 曜 日 |
|-------|---|---|--|---------------------------------------|---|----------------------------------|-----------------|---|
| 第 1 週 | 13:00 あやめの里自治会 16:30 法人社保・平和委員会 | | 14:00 施設担当者会議 | | | 10:00 家族の会世話人会 16:00 定例理事会・県連 | 13:30 入所フロアカンファ | あかね運営・リーダー会議 |
| 第 2 週 | 10:30 こがねボランティア会議 | 17:30 法人教育研修委員会 18:30 常勤役員・管理者会議 | 14:00 施設担当者会議 14:30 高齢者福祉委員会・県連 18:00 こがね運営会議 | 14:00 こがね安全管理委員会 | 11:00 身体拘束廃止委員会 15:00 介護職部会・県連 | | 13:30 入所フロアカンファ | あかね乳児・幼児会議 |
| 第 3 週 | | | 13:30 こがね入所職責者会議 14:30 ケアケア小委員会・県連(奇数月) 15:30 医療ケア安全委員会(四半期) | 17:30 あこだ職員会議 18:00 こがねタイ職員会議 | 10:30 医療・介護安全委員会・県連 18:00 ホームヘルプ職員会議 | | 13:30 入所フロアカンファ | |
| 第 4 週 | | 14:30 経営委員会・県連 18:30 労使協議会 19:00 常勤役員・管理者会議 | 14:00 施設担当者会議 17:30 こがね入所職員会議 18:00 あかひの愛職員会議 | 14:00 こがね労働安全衛生委員会 14:00 こがねタイ職員会議 | 14:00 月所経理会議 15:30 給食管理会議(偶数月) | | 13:30 入所フロアカンファ | あかね 健康安全委員会 あかね 給食会議 あかね 社保委員会 あかね 運営・職員会議 |
| 第 5 週 | | | 14:00 施設担当者会議 | | | | 13:30 入所フロアカンファ | |
| 随 時 週 | | | | 14:00 あかひ運営推進会議 こがねの里タイカービス運営推進会議 | | 14:00 あかね運営協議会 | | |
| そ の 他 | <div> <div>「こがねの里」 入所判定会議 協力病院調整会議(4半期毎程度) こがねの里を良くする会役員会</div> <div>「あかね保育園」 関係者会議 地域子育て支援 運営会議 地域子育て支援 運営会議 保育四者協議会 奈良の教育と保育を良くする会</div> <div>「職域等」 ソーシャルワーカー小部会</div> </div> | | | | | | | |

第 4 節 会議開催計画

第5節 委員会の構成および計画

1. 法人に設置する委員会

(1) 社保平和委員会

毎月第1月曜日16:00から定例開催。委員会担当管理者1名、こがねの里3名、あこだ1名、あかね保育園1名の6名で運営していきます。

(2) 教育研修委員会

毎月第2火曜日17:30から定例開催。委員会担当管理者2名、こがねの里2名、あかね保育園1名の5名で運営していきます。

2. 事業所（拠点）に設置する委員会

(1) こがねの里入所判定会議

毎月1回定例開催を基本とします。一般入所申込者および優先入所申込者（特例入所）の入所判定および次期入所者の決定を行います。緊急時など必要な方の入所判定と決定が機動的に対応できるよう、居宅介護支援事業所等へ出席要請を行い、日ごろからの連携と情報共有を図っていきます。

(2) こがねの里労働安全委員会

毎月第4木曜日15:00から定例開催します。労働者の危険又は健康障害の防止のための基本となるべき対策（原因究明や再発防止策）について調査審議を行っています。職場のソフト面の快適化にむけ、アンケート調査の継続的实施と快適化に向けた施策について検討していきます。

(3) こがねの里安全管理委員会

サービス提供上における事故や感染症等に対して適切な安全管理を推進し安全なサービス提供に資することを目的に「こがねの里感染症対策委員会」および「事故防止検討委員会」を統合し、安全管理委員会を新たに設置し、安全管理の強化と充実を図っていきます。毎月一回定例開催し、他職種横断の委員構成で毎月一回定例開催し事例の評価、業務手順の見直しおよび安全管理に関する研修を企画していきます。

(4) こがねの里医療的ケアの安全対策委員会

こがねの里安全管理委員会のもとに「医療的ケアの安全対策」に対応した委員会に再編します。四半期ごとの3の倍数月の第3水曜日15:30～16:00に定例開催します。医療的ケアに関する情報の周知と共有、医療的ケアに関する安全に関する事項、特定行為業務従業者数等の把握を行います。事業所職員を対象とした医療的ケアに関する研修として喀痰吸引、経管栄養に関する研修を年1回開催します。

(5) こがねの里身体拘束廃止委員会

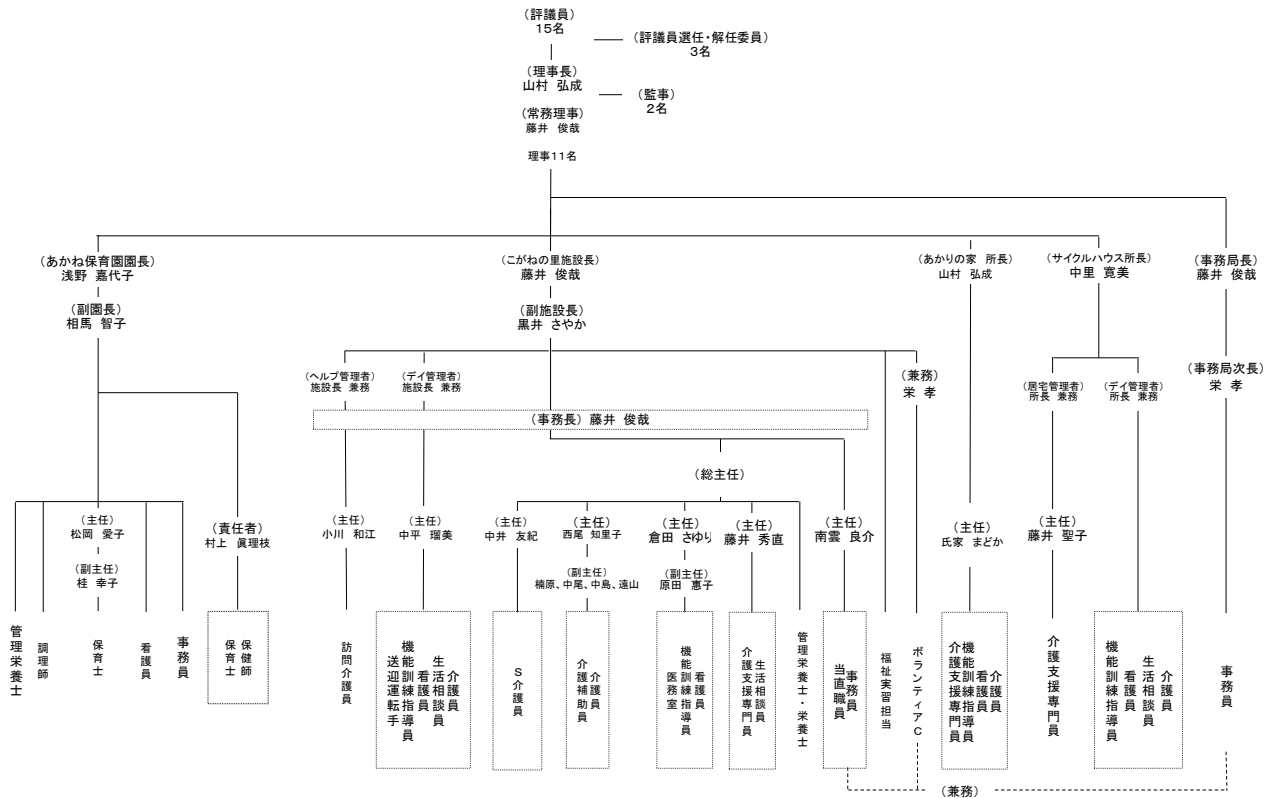
毎月第2金曜日11:00から定例開催します。年1回身体拘束廃止等に関する研修会を企画開催します。

(6) こがねの里・あかりの家給食管理会議

委託業者と隔月（偶数月第4（金））を目安とし、定期的に会議を開催します。

第四章 人事・配置計画

第1節 配置図



第2節 職員配置計画

| 実人数／常勤換算 | 法人本部 | | | | 特養・ショートステイ | | | | こがねデイ | | | | ホームヘルプ | | | |
|------------|------|------|----|------|------------|------|-----|-------|-------|------|-----|-------|--------|------|----|------|
| | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 |
| 管理者・監理監督 | 1人 | | 1人 | 1.0名 | 2人 | | 2人 | 1.2名 | (兼) | | | 0.6名 | (兼) | | | 0.2名 |
| 介護員 | | | | | 31人 | 24人 | 55人 | 47.5名 | 3人 | 5人 | 8人 | 6.8名 | | 5人 | 5人 | 4.1名 |
| 介護補助員 | | | | | 1人 | 3人 | 4人 | 3.4名 | | | | | | | | |
| 看護員(専) | | | | | 4人 | 3人 | 7人 | 6.4名 | | | | | | | | |
| 機能訓練指導員(専) | | | | | 1人 | | 1人 | 1.0名 | | | | | | | | |
| 看護・機能訓練(兼) | | | | | | | | | | 2人 | 2人 | 1.1名 | | | | |
| 医師(嘱託) | | | | | | 3人 | 3人 | 0.3名 | | | | | | | | |
| 保育士 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (管理)栄養士 | | | | | 1人 | | 1人 | 1.0名 | | | | | | | | |
| 調理員 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生活相談員 | | | | | 2人 | | 2人 | 2.0名 | 2人 | | 2人 | 2.0名 | | | | |
| 介護支援専門員 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事務員 | | | | | 3人 | 1人 | 4人 | 4.0名 | | | | | | | | |
| 当直職員 | | | | | | 4人 | 4人 | 0.9名 | | | | | | | | |
| 運転手 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | 1人 | 1人 | 0.5名 | | | | | | | | |
| 合計 | 1人 | | 1人 | 1.0名 | 45人 | 39人 | 84人 | 68.1名 | 5人 | 7人 | 12人 | 10.5名 | | 5人 | 5人 | 4.3名 |

| 実人数／常勤換算 | 介護予防サイクルハウス・あこだ | | | | こがねの里居住宅介護支援事業所 | | | | 高齢者生き生きグループリビングあやめの里 | | | | 小規模多機能ホーム あかりの家 | | | |
|------------|-----------------|------|-----|-------|-----------------|------|----|------|----------------------|------|----|------|-----------------|------|-----|-------|
| | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 |
| 管理者・監理監督 | 1人 | | 1人 | 0.1名 | (兼) | | | 0.1名 | (兼) | | | | 1人 | | 1人 | 1.0名 |
| 介護員 | 1人 | 8人 | 9人 | 6.9名 | | | | | | | | | 1人 | 11人 | 12人 | 8.1名 |
| 介護補助員 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 看護員(専) | | | | | | | | | | | | | | 3人 | 3人 | 1.0名 |
| 機能訓練指導員(専) | | | | | | | | | | | | | | 1人 | 1人 | 0.1名 |
| 看護・機能訓練(兼) | | 3人 | 3人 | 1.0名 | | | | | | | | | | | | |
| 医師(嘱託) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 保育士 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (管理)栄養士 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 調理員 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生活相談員 | 2人 | | 2人 | 2.0名 | | | | | | | | | | | | |
| 介護支援専門員 | | | | | 2人 | 1人 | 3人 | 2.9名 | | | | | 1人 | | 1人 | 1.0名 |
| 事務員 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当直職員 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 運転手 | | 4人 | 4人 | 2.6名 | | | | | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 4人 | 15人 | 19人 | 12.6名 | 2人 | 1人 | 3人 | 3.0名 | | | | | 3人 | 15人 | 18人 | 11.3名 |

| 実人数／常勤換算 | あかね保育園 | | | | 奈良市子育て支援センターPeace | | | | 企業委託保育 | | | | 社会福祉法人秋篠茜会 合計 | | | |
|------------|--------|------|-----|-------|-------------------|------|----|------|--------|------|----|------|---------------|------|------|--------|
| | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 | 正規 | 正規以外 | 人数 | 常勤換算 |
| 管理者・監理監督 | 1人 | 1人 | 2人 | 2.0名 | (兼) | | | | (兼) | | | | 6人 | 1人 | 7人 | 6.2名 |
| 介護員 | | | | | | | | | | | | | 36人 | 53人 | 89人 | 73.4名 |
| 介護補助員 | | | | | | | | | | | | | 1人 | 3人 | 4人 | 3.4名 |
| 看護員(専) | 1人 | | 1人 | 1.0名 | | 1人 | 1人 | 0.5名 | | | | | 5人 | 7人 | 12人 | 8.9名 |
| 機能訓練指導員(専) | | | | | | | | | | | | | 1人 | 1人 | 2人 | 1.1名 |
| 看護・機能訓練(兼) | | | | | | | | | | | | | | 5人 | 5人 | 2.1名 |
| 医師(嘱託) | | | | | | | | | | | | | | 3人 | 3人 | 0.3名 |
| 保育士 | 17人 | 18人 | 35人 | 30.3名 | | 4人 | 4人 | 2.3名 | 1人 | 2人 | 3人 | 3.0名 | 18人 | 24人 | 42人 | 35.6名 |
| (管理)栄養士 | 1人 | | 1人 | 1.0名 | | | | | | | | | 2人 | | 2人 | 2.0名 |
| 調理員 | 1人 | 3人 | 4人 | 2.1名 | | | | | | | | | 1人 | 3人 | 4人 | 2.1名 |
| 生活相談員 | | | | | | | | | | | | | 6人 | | 6人 | 6.0名 |
| 介護支援専門員 | | | | | | | | | | | | | 3人 | 1人 | 4人 | 3.9名 |
| 事務員 | | 1人 | 1人 | 1.0名 | | | | | | | | | 3人 | 2人 | 5人 | 5.0名 |
| 当直職員 | | | | | | | | | | | | | | 4人 | 4人 | 0.9名 |
| 運転手 | | | | | | | | | | | | | | 4人 | 4人 | 2.6名 |
| その他 | | | | | | | | | | | | | | 1人 | 1人 | 0.5名 |
| 合計 | 21人 | 23人 | 44人 | 37.4名 | | 5人 | 5人 | 2.8名 | 1人 | 2人 | 3人 | 3.0名 | 82人 | 112人 | 194人 | 154.0名 |

第五章 地域交流計画

第1節 実習生等の受け入れ

| 内 容 | 学校・団体名 | 予 定（未確定含む） |
|-------------------------------|---|---|
| 社会福祉士実習 | 佛教大学 関西福祉科学大学 龍谷大学 日本福祉大学(通信制) | 7/1～8/31 8/1～9/30 11/1～12/20 9/1～10/31 |
| 介護初任者研修 [○] 実務者研修 | 特定医療法人(財団)岡谷会 | 第1回 4/3～5/24 9月頃 |
| 栄養士実習 | 大阪夕陽丘学園短期大学 | 10月頃 |
| 介護支援専門員実務研修実習 | 奈良県社会福祉協議会 | |
| 職場体験 | 富雄中学校 | 11月頃 |
| | 富雄第三中学校 | 11月頃 |
| | 就職希望者 職場訪問・体験 | |
| その他 | 奈良歯科衛生士専門学校 | 6/11～6/13、6/18～6/20 8名 |
| | 奈良県職員新任フォローアップ | 6/21～6/22、7/3～7/4 8名 |

第2節 講師等派遣予定

| 内容 | 実施団体 | 時期 | 職種 | 人数 |
|--------------------|-----------|----|-------|----|
| 「本物に学ぶ」 介護初任者研修 | 伏見中学校 | | 介護職 | 2名 |
| | 特定医療法人岡谷会 | | 介護・事務 | 3名 |

第3節 地域行事参加・交流計画

| 内容 | 団体 | 予定 |
|-------------|--------------|---------|
| 3年生・高齢者等の交流 | 西大寺北小学校 | 11月～12月 |
| 西大寺北地区防災訓練 | 西大寺北地区防災・防犯会 | 11月 |

[○] 複数回の開催予定あり。

第六章 事業分野別の計画

第1節 あかね保育園事業計画

子ども子育て支援新法が施行され3年目になりましたが、ここ数年、保育問題は国民の最大の関心事になっています。特に財務省は保育の受け皿整備のために、保育事業者の利益率は全産業平均より高いとして、18年度にも保育施設を運営する社会福祉法人等へ補助金を減額して充てる可能性を示唆しました。

12月8日閣議決定した「新たな政策パッケージ」には①3～5歳すべての子どもたちの幼稚園、保育所、認定こども園の費用を無償化する②0～2歳児については「当面、住民税非課税世帯を対象に無償化をする」とし、その財源は消費税引き上げ時期を見込み2019年度から実施するとしています。また、自治体独自の努力に対して、上乗せ基準の切り下げを迫る「規制制度改革」が提案されました。また、協議会設置や無償化の財源として、事業主拠出金率の上限を0.25%から0.45%に引き上げ、その拠出金の充当の対象を0～2歳の教育・保育給付費にも拡大しようとしています。保育・子育て支援に関しては、待機児童解消、公定価格の抜本的な引き上げ、配置基準の改善、保育士の処遇改善、保育環境の改善など、緊急に実施すべき課題が山積みであり、政策実施の優先順位を議論する必要が求められています。また、今年4月の「新保育所保育指針」施行にあたり「小学校の準備」が強調され、国旗・国歌の導入などで、保育内容に不当な介入が心配される中、子どもの育つ権利や人権を守る保育を構築する事が求められています。

奈良市では年々増加する待機児童対策として、新設園2カ所の募集を始めました。保育園の需要が高くなる反面、公立幼稚園・保育所は統廃合し認定こども園に転換していく計画が次々に実施されようとしている中、統廃合の波は地域で不安と反対の声が広がっています。計画の見直し及び幼稚園の3年計画実施など、奈良市の子育てしやすい街づくりの観点から、地域の実態に見合った計画の見直しが求められています。今後、私達は地域で多くの保育関係者が繋がって、課題を共有し、自治体に要望を上げ、更に国へ制度改善の働きかけを強めていく必要があります。新年度は昨年と比べ、0歳児入園希望児及び在園児兄弟の0歳児の入園も少なく、4月度0歳児の入園が減少する見込みです。また、新卒も含め正規保育士4名を採用しました。更に、保育士確保が急務であり、今後の対策が求められています。

1. 重点目標

- ① 法人理念及び子どもの権利条約及び児童憲章、児童福祉法に基づき、子どもの人権が守られる乳幼児の保育をおこないます。
- ② 職員は豊かな愛情をもって子ども達に接し、研修等で保育技術の習得、資質の向上に努めます。また、職種を越え励まし、育ち合える、働きがいのある職場づくりに取り組みます。
- ③ 人員不足にならないように、職員確保に努めます。
- ④ 『地域の子育ての拠点となる保育園』をめざし、子ども達を取り巻く社会状況にも目を向け、児童福祉の拡充ならびに、地域におけるニーズに沿った家庭支援などに努めます。また、地域の多くの保育関係者や他団体とともに繋がって、課題を共

- 有し、自治体に要望するとともに、国に向けて制度改善の働きかけをすすめます。
- ⑤ 施設の修繕計画に沿って、計画的な積み立てを行います。

2. 園児及び保護者支援計画

(1) 心身ともに健やかで、生き生きとしたこどもを育てます。

- ① 5つの定点「よく食べ、よく遊び、よく眠る、早寝、早起き」の心地よい生活リズムを確立し、保護者とともに健やかに成長するこどもに育てます。
- ② 自我の芽生えや自己主張を大切にし、保育士はこどもの気持ちを受け止め、自分で決めて行動できるように、自立する力を育てます。
- ③ 生活経験と遊びを豊かにし、主体的に遊べるこども、友達と共感し合える心を育てます。散歩や戸外遊びを多く取り入れ、いろいろなものに興味を示し、自然の中で遊ぶことにより、豊かな感性と創造性を育てます。
- ④ リズム遊び、歌、絵画、ごっこ遊びや劇あそび等で表現する楽しさを育てます。
- ⑤ 諸行事を通して、充実感と達成感を身につけ、自己肯定感を育てます。
- ⑥ 話をしっかり聞き、自分で考え、気持ちを伝え、行動ができるこどもを育てます。
- ⑦ 「異年齢交流」をテーマと位置づけ、計画的な保育実践に取り組み、こども、大人同士の繋がりを進めていきます。
- ⑧ 保育室では、落ち着いた保育環境の中で遊べる工夫を行います。
- ⑨ 保護者の方の思いを受け止め、信頼関係を築き、共に学び支え合い共育てを目指します。
- ⑩ 配慮の必要な子どもや様々な困難を抱えている家庭に対し、専門機関と連携しつつ、細かな支援で子どもの安全を守り、全面発達を保障します。

(2) 安全で豊かな保育環境づくりに取り組みます。

- ① 園児に手洗い指導等の衛生安全指導を行うとともに、保護者への啓蒙をすすめます。
- ② 健康安全委員会の充実で、園児や保育環境の安全保全に努めます。
- ③ 保育業務の流れを作成し、どの場面でも保育士が連携しつつ、落ち着いた雰囲気の中で、子ども達に安全で丁寧な保育が行えるように努めます。
- ④ ヒヤリハットや事故報告 K-SELL 検証から事例を分析し教訓を共有化する中で、職員の危機管理能力を高め、子どもたちが伸び伸びと安全に遊べる環境保全に努めます。
- ⑤ 蘇生技術や感染症について学習し、事故防止に努めます。
- ⑥ 災害時に備え、防災対応マニュアルに従い、その具体的な実践を保護者も交え進めます。
- ⑦ 安全衛生マニュアルを全職員で共有し、事故等に繋がらないよう努めます。

(3) 「あかね保育園の給食7つの大切」を基調にこどもの健康を守り発達に必要な栄養を保障します。

- ① 「食育」の一貫として、失われつつある食文化を伝えます。
- ② 皮むきや、クッキング、野菜栽培を通して、こどもたちが意識的に食材に触れ、つくる楽しさと食べる楽しさ、命の大切さが実感できるように「食育」を進めます。
- ③ 給食委員会で給食を研究・研修し、更に、自園給食の良さを検証し発展させます。
- ④ 「食育」推進の大事な第一歩である離乳食を豊かに進めるために、0歳児一人ひとりの口腔チャックに沿って離乳食の援助を行うとともに、保護者に寄り添い、丁寧な食事指導を行います。
- ⑤ 食材の栄養内容等をこどもに知らせ、健康に必要な食事について啓蒙します。
- ⑥ アレルギー児に対する除去食、代替食に取り組み保護者とともにアレルギーの改善に取り組みます。
- ⑦ 保護者の方に食事をとる家族団欒の大切さや生活習慣を含め『食育』の大切さを啓蒙しつつ、ともにその前進に努めます。
- ⑧ 安全・衛生を徹底するとともに、食中毒等の予防に努めます。

3. 地域福祉拡充計画

(1) 奈良市子育て支援センターPeaceと協力、共同して子育て支援活動の充実に努めます。

(2) 園庭解放を実施し、子育て親子が安心して遊び交流できる場を提供します【4, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 3月】

(3) 病後児保育事業を更に啓蒙・充実させ、子育てを応援します。

(4) あかね保育園保護者会, 奈良市子育て支援センターPeace関係者会議で懇談、交流します。

(5) 地域保育関係者や諸団体と連携し、奈良市に対し要望するなど保育環境改善に努めます。

4. 民主的管理運営計画

(1) 全日本民医連方針と決定及び法人理念を学び、地域に求められる保育園の役割や保育士の専門性について学習・研修をすすめ、生きがいの持てる職場づくりに努めます。

(2) 自己学習を基本に据えながら、学習・研修及び事例検討（カンファレンス等）により保育技術の習得、資質の向上に努めます。

(3) 法人の姿マップをもとに、さらに業務内容を具体化した保育園独自マップを作成し、職員の育成に努めます。

(4) 研修、カリキュラム委員会を立ち上げ、保育内容の充実と職員育成に努めます。

(5) 職員会議・リーダー会議等では、職員が共通認識にたち積極的に発言、論議ができる環境の整備と改善に努めます。

(6) 全職員参加の経営をめざし、経営内容の啓蒙に努めます。

5. 財政基盤強化と財源確保計画

(1) 入園希望者へは施設見学を毎月実施し法人理念や保育方針を丁寧に知らせ、Peaceと連携し、園児獲得につなげます。

(2) 無駄な支出をなくし、効率的な施設運営に努めます。

6. 施設整備計画

(1) 修繕計画に基づきその財源確保と実施に努めます。

- ① テラスの改修工事 (約100万円)
- ② 冷暖房機器のメンテナンス (約60万円)
- ③ 避難車1台の購入 (16万円)

(2) 保育環境の更なる充実に向け、計画的な積立てに努めます。

第2節 企業委託型保育サービス事業 あゆみ事業計画

1. 運営を振り返って

＊ 実利用児童数の比較

| 年度 | 年度 | 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 小学生 | 合計 | | | |
|-----------|------|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|
| 登録 児童数 | 2016 | 3 | 5 | 3 | 2 | 6 | 5 | 1 | 25 | | | |
| | 2017 | 3 | 1 | 5 | 3 | 2 | 6 | 2 | 27 | | | |
| 月 | 年度 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 1 | 1 | 合計 |
| 延べ利 用数 | 2016 | 17 | 31 | 12 | 14 | 21 | 34 | 35 | 36 | 48 | 57 | 305 |
| | 2017 | 28 | 25 | 22 | 32 | 32 | 34 | 34 | 27 | 36 | 43 | 313 |

安倍政権は選挙が終わった途端に再び暴走を開始、医療と介護分野の改悪を一気に進めようとし、患者・利用者への負担増とともに、保険給付から自己負担化へ流れを強めています。医療や介護にかかれない人が増え続け、重度化する中、民医連で働く看護師等医療介護従事者の役割が求められています。その様な中で、委託保育事業の果たす役割は大きく、女医さんや看護師等が安心して働けるような保育や子育て支援が求められています。

委託保育事業ではスムーズに利用できるよう「利用方法のしおり」の改定や面接時マニュアル、泊り時健康受入れ表等も見直しし、記入しやすい内容に変更しました。保育では子ども達が異年齢集団で楽しく生活できるよう日案、行事案も作成し実践する中、子ども達は「あゆみ保育大好き！」と毎回利用を楽しみにしています。また、月1回の日曜保育での様子をポスターで掲示するとともに、あゆみだよりを年3回発行するなど保護者支援にも取り組みました。登録児童数は2歳と5歳が増加し、その他の年齢児が減少しているものの、兄弟利用の増加や0歳1名は1月より、もう1名は2月よりの待機児入所があったため、総利用児童数が昨年305名に対し、今年度は313名増えました。

新年度は産休明け復帰者3名の利用が見込まれるため、更なる利用増が見込まれます。

新年度は新しい昨年比べ体制での保育の開始にあたり、あかね保育園職員と共に、学び、育ち合う気風を持って、看護師等が子育てしながら、安心して働き続けられ、子ども達が異年齢集団の中で、安心して遊び育つ環境を大事にしつつ、毎月、夜間時の避難訓練や心肺蘇生訓練の実施、安全保全の取組みを引き続き実施していきます。

2. 基本方針

児童福祉法及び「民医連の保育問題に対する基本的考え方」の理念に立ち、「企業委託型保育サービス事業運営規定」及び「平和会委託契約保育所の利用・運営規定」を基調に、利用される職員が安心して働き、その子育てを応援しつつ、子ども達一人一人が大事にされ安心して生活できる保育環境の整備と保育内容の充実をめざします。

3. 重点目標

- ① こども達が異年齢集団の中で兄弟関係で育つことを事にしつつ、ゆったり、楽しく遊べる保育をめざします。
- ② 保護者の方の働きを学びつつ、こどもの様子を丁寧に伝え、こどもの成長について共感し合い、信頼関係を築き、子育てをすすめます。
- ③ 研修や学習会に出来る限り参加し、職員の専門性の向上に努めます。
- ④ 保護者が安心して利用でき、委託保育職員が安心して働き続けられるよう4者協議会にて協議し、安定的運営に努めます。
- ⑤ ヒヤリハット等の教訓をあかね職員と共有し、危機予知能力等保育士の力量を高め、こどもの事故防止、安全保全に努めます。
- ⑥ 避難訓練にも取り組み、園児の安全確保に努めます。

第3節 奈良市地域子育て支援センター「Peace」事業計画

1. 基本課題

- ① あかね保育園の取り組みに沿った「安心して子育てができ、子どもからお年寄りまで安心して暮らせる地域をめざし、ともに手をつないでいける子育て支援センター」をめざします。
- ② 保護者が親になった喜びや自信が持てるように、場の提供・情報の提供・相談業務・地域支援事業、一時預かり事業や利用者支援事業（新規事業）に努めます。
- ③ 「孤立の子育て」の減少に向け、子育て世代がつながる取り組みを実施し、子どもの健やかな成長を育んでいきます。
- ④ 地域の人々が気軽に立ち寄ることができる子育て拠点になるような取り組みを行い、地域との連携を強めていきます。

2. 具体的な実施内容

- ① 週5日の場の提供（10時～16時）、月1回以上の講座（下記計画案）を実施します。また、育児情報の提供、子育て相談業務・出前講座・地域支援活動、利用者支援事業（新規事業）に取り組み、あかね保育園と合同の事業（園庭開放、保育園ウォッチング等）を実施し、親育て・子育てを支援し、自己肯定感を向上させていきます。
- ② 一時預かり「ひよこルーム」は、週4日（月、火、木、金曜日）実施します。
- ③ 職員は、積極的に研修に参加することで、スキルアップに努めていきます。
- ④ 子育て支援センター関係者会議を定期的に開催し、地域の実態を知り、地域のつながりを深めていきます。

また、**Peace**主催の地域ごと子育て支援交流会を開催することで、近隣子育てひろばや子育てスポット、子育てサークル等との連携を強めていきます。今年度も、近隣の子育てスポットや子育てサークル等の訪問を実施し、地域連携を強めていきます。

- ⑤ 「安心して子育てができる地域づくり」を着実に進めていくために、地域の人々が気軽に立ち寄ることができる子育て拠点になるような取り組みをしていきます。今年度も、こがねの里等をはじめとする地域にある施設を訪問し、協働事業を推進していきます。また、地域住民や高齢者とも連携していきます。
- ⑥ 地域全体で、子どもの育ち・親の育ちを支援するために、地域の実情に応じ、地域に開かれた運営を行い、関係機関や子育て支援活動を実施する団体等と連携の構築を図る「地域支援」を強化していきます。

3. 事業計画

| | Peace の魔法 | わくわく Peace |
|------|--------------------|-----------------|
| 4 月 | 製作（こいのぼりづくり） | お花見遠足（平城宮跡） |
| 5 月 | 離乳食講座①（準備期・前期・中期食） | 公園へお散歩 |
| 6 月 | 歯みがき指導 | どろんこ遊び |
| 7 月 | タッチセラピー | 水遊び① |
| 8 月 | パパとふれあい遊び | 水遊び② |
| 9 月 | 離乳食講座②（後期・完了食） | フィンガーペインティング |
| 10 月 | 親子リズム体操 | ミニ運動会 |
| 11 月 | 健康講座 | どんぐり拾い（平城宮跡） |
| 12 月 | クリスマス会 | 親子ふれあい遊び |
| 1 月 | 幼児食講座（かんたんおやつ・食育） | 十五所神社へ初詣 |
| 2 月 | お雛さま製作 | 人形劇（あかね保育園合同事業） |
| 3 月 | 親子でリトミック | 公園へお散歩 |

第4節 こがねの里居宅介護支援事業所 事業計画

1. 重点目標

- ① 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる無差別平等の地域包括ケアを目指し、地域に開かれた福祉の窓口として必要な支援を迅速に提供できるよう努めます。
- ② 介護保険制度改定における利用者の生活実態を把握し法人内に地域高齢者の情勢を伝え、社会保障全般にわたる公的制度の改善拡充を共同組織とともに訴え運動を強化します。
- ③ サービスの質を確保しつつ79件の介護管理件数を追及し、関係機関に働きかけ法人高齢者事業と連携を図り事業を安定的に運営します。次年度以降の更なる加算算定要件確保のため取り組みを進めます。

2. 運営・援助目標

- (1) 在宅で安心して生活するために医療や各種事業、地域住民と連携し支援体制を整えます。
 - ① 社会資源を調整し支援をとおして地域に法人全体の取り組みを発信します。
 - ② 家族や他事業所、地域包括支援センターや民生委員と連携するため、利用者のプライバシーに配慮しながら情報提供を行います。他法人と共同で事例研究会を開催します。
 - ③ 24時間連絡可能な体制をとることにより、事業所と連携し終末期や困難事例に柔軟に対応します。
 - ④ 退院退所時からの関わりを通して利用者家族との関係を構築し、終末期までの支援を円滑に進めます。
- (2) 利用者が介護保険制度を理解し、適切なサービスが選択できるよう相談援助を行います。
 - ① 新規利用者が理解しやすいよう、パンフレット等を用いて制度を説明します。
 - ② 継続利用者の相談は定期訪問で信頼関係をつくり、相手の尊厳を保ちながら訴えを傾聴し随時必要な情報の提供と提案を行います。
 - ③ 適宜サービス担当者会議を開催し、家族や事業所と必要な情報を共有します。
 - ④ 制度改定に関する情報提供とともに、サービスが制限される利用者には代替策を提案します。介護保険外サービスについて地域ニーズや資源の把握を行います。
 - ⑤ 地域ケア会議等に参加し地域包括システムの動向把握に努め、必要な支援体制を検討します。
- (3) 介護支援専門員としてのスキルアップを図ります。
 - ① 利用者の潜在的ニーズをすくい上げ、状況に応じた的確に提案を行います。

- ② 自治体や地域包括支援センター主催の研修会等に参加し情報を収集します。
- ③ 職員会議等で研修報告や利用者状況を共有し、事例検討を通して利用者理解を深め連携して支援に当たります。
- ④ 介護支援専門員等の実習受け入れを通し、援助者の専門的実践の振り返りとなり利用者へのサービスが質量ともに高い水準に到達するよう取り組みます。

第5節 こがねの里ホームヘルプセンター 事業計画

1. 重点目標

- ① 利用者の意思及び人権を尊重し、自立支援に努めるとともに、利用者の気持ちや生活背景に寄り添ったサービスの提供に努めます。
- ② 他事業所・法人内の他部門との連携を図り、在宅生活が継続的に続けていける様に専門性の高いサービス提供に努めます。
- ③ 変化する利用者のニーズに柔軟かつ積極的に対応し、利用者家族との信頼関係を深め、負担軽減に努めます。
- ④ ニーズに全般的に応えるため、職員確保を進め効率的な配置を行っていくとともに、研修を行い技術・知識の向上に努めます。

2. 運営援助目標

- ① 利用者の身体状況の変化や訪問時の報告等連絡が密に取れる環境作りに心がけ、必要に応じてカンファレンスや会議を開いて職員一人一人が意見を出し合い、チームケアの充実を図り利用者が安心して生活できるサービスを行える様にします。
- ② 外部研修・内部研修に積極的に参加し、毎月1回の職員会議を活用します。共に学び合える機会を作り、介護技術の向上、利用者とのコミュニケーション能力の向上を図ります。多くの事例を学び、認知症ケアの充実を図ります。
- ③ 働きやすい職場作りの為に職員間でのコミュニケーションを深め、尊重し合い、理解し合う事で、モチベーションも上がりよりよいサービスの質の向上を目指します。
- ④ 利用者の心身の状況に応じて、特性や将来的な可能性を把握し、サービス内容が適しているか本人や家族、関係機関と確認しながら実施します。

第6節 介護予防サイクルハウス・あこだ 事業計画

1. 重点目標

- ① 誰もが、安心して住みなれた地域で暮らしていくことのできる無差別・平等の地域包括ケアを目指します。
- ② 国政は社会保障を自助・共助の流れに進める、地域高齢者に必要な支援が受けら

れまた継続できるように、公的責任のもと公的制度の拡充を訴えながら、制度改善・充実を求める運動を法人高齢者事業部門・協同組織、利用者・家族とともに進めます。

- ③ 介護技術や運動指導への技術・知識の向上に努めます。地域にある資源のひとつとして専門性を発揮し、事業所設備を最大限有効活用しながら、地域高齢者の介護予防・健康づくりを支援します。

2. 運営・援助目標

(1) 事業内容

- ① 地域に根ざし、必要とされる通所介護事業や総合事業の継続的な運営を図るため、機能訓練を一つのサービスととらえ、地域高齢者の要求に応えられる事業展開を研究・検討します。

3. 事業運営

(1) 会議運営

- ・ 毎月1回第3木曜日に定期的に職員会議を開催し、利用者の心身の状況や要望等共通理解の場として課題解決や業務改善の検討の場とします。
- ・ 職員が参画する職場会議となるよう、議事内容や進行方法等工夫します。また内部研修の機会にも位置づけ、サービスの質の標準化および向上を目指します。
- ・ 送迎ミーティングを毎日13:45～14:00に開催します。メンバーは生活相談員・運転手・介護員にて送迎ルート of 検討および利用者状況（住宅・交通含む）の共通確認の場とします。必要に応じ移動介助法等の研修を行います。

(2) 職員教育や研修、体制確保と維持

- ・ 介護技術・感染症予防や事故防止・対応、救急救命、認知症などの研修は、こがねの里学習会に参加し技術や知識の向上を図ります。
- ・ 高齢者に多い疾病や障害への理解を深め、技術や知識、コミュニケーション能力の向上を図り、共に学びあいます。また標準的な機能訓練指導手順においても同様です。
- ・ 介護職員は介護福祉士資格取得をめざし、自己研鑽に努め、共に学びあう職場風土を作ります。
- ・ 利用者の増加や平均介護度の上昇により、職員配置や業務分担、各種マニュアルの見直し及び整備を行い運営基盤の強化を図ります。
- ・ 1年に1回職員との個人面談の機会を設けます。法人の「わたしの姿マップ」を活用し職員に業務における個別課題整理や目標の再確認の場とします。

(3) 援助内容

- ・ 介護予防への取り組みを、利用者自身が楽しく行えるようなプログラム内容の検

討を行います。また利用者へ励ましや評価などたくさん声かけをします。

- ・ 利用者の身体機能に応じ余暇活動の充実を図ります。作業療法や他者との交流の機会を創出します。

(4) サービス内容

| | | | | |
|-----------|--------|---------------------------|-----------------|--|
| 1 単位目 | サービス内容 | 内容についての説明 | | |
| 8 : 0 0 | 送迎サービス | ご自宅までお迎えに行きます。 | | |
| 8 : 4 5 | 健康チェック | 体温、血圧などのバイタル測定や問診を行います | | |
| 9 : 3 0 | 準備運動 | トレーニングルームにて体操やストレッチを行います。 | | |
| | | トレーニングルーム | プール | |
| 9 : 4 5 | 機能訓練 | トレーニングマシンを使ったプログラム | 機能訓練 | 水中での歩行や体操のプログラム (集団でのメインプログラム: 2 5 分) |
| 1 0 : 3 0 | 休憩 | 水分補給、他者との交流の場を提供します | 休憩 | 水分補給、他者との交流の場を提供します |
| 1 0 : 4 5 | 機能訓練 | 選択運動メニューの実施 | 機能訓練 | 個別選択メニューの実施: 1 5 分 整理体操 |
| 1 1 : 1 0 | | | 入浴 | 入浴介助を行います |
| 1 1 : 3 5 | 整理運動 | | 機能訓練で使った体をほぐします | |
| | 健口体操 | 口腔体操 (舌体操、ごっくん体操、顔面体操他、歌) | | |
| 1 1 : 4 5 | 健康チェック | 血圧測定、問診を行います | | |
| 1 2 : 1 5 | 送迎サービス | ご自宅までお送りします | | |
| 2 単位目 | サービス内容 | 内容についての説明 | | |
| 1 3 : 0 0 | 送迎サービス | ご自宅までお迎えに行きます。 | | |
| 1 3 : 3 0 | 健康チェック | 体温、血圧などのバイタル測定や問診を行います | | |
| 1 4 : 0 0 | 準備運動 | トレーニングルームにて体操やストレッチを行います。 | | |
| | | トレーニングルーム | プール | |
| 1 4 : 1 5 | 機能訓練 | トレーニングマシンを使ったプログラムの実施 | 機能訓練 | 水中での歩行や体操のプログラム (集団でのメインプログラム: 2 5 分) |
| 1 5 : 0 0 | 休憩 | 水分補給、他者との交流場を提供します | 休憩 | 水分補給、他者との交流の場を提供します |
| 1 5 : 1 5 | 機能訓練 | 選択運動メニューの実施 | 機能訓練 | 個別選択メニューの実施: 1 5 分 整理体操 |
| 1 5 : 4 | | | 入浴 | 入浴介助を行います |

| | | | | |
|-------|--------|--------------------------|--|--|
| 0 | | | | |
| 16:15 | 整理運動 | 機能訓練で使った体をほぐします | | |
| | 健口体操 | 口腔体操（舌体操、ごっくん体操、顔面体操他、歌） | | |
| 16:30 | 健康チェック | 血圧測定、問診を行います | | |
| 17:00 | 送迎サービス | ご自宅までお送りします | | |

第7節 こがねの里デイサービスセンター 事業計画

1. 重点目標

介護が必要になっても、できる限り住み慣れた家や地域で暮らし続けたい』という利用者の願い、介護者の困難に寄り添い、利用者や家族が望む生活が送れるよう他のサービス、地域住民等、法人内外との連携を強めます。

2. 運営・援助目標

（1）事業数値目標

- ・稼働率目標数値 86%
- ・一日平均利用者数 15.5名
- ・平均介護度 2.5
- ・新たな加算取得にも挑戦します。

（2）食事・栄養に関すること

利用者ごとの希望及び嗜好を確認し、安全に楽しんで食事ができるよう個別の状況にあわせた形態で提供します。

（3）入浴・整容に関すること

- ① 利用ニーズの中心となるサービスであり、入浴時間や湯温等個々の要望に最大限配慮し、安全確保に努めます。
- ② 全身状態を観察し異常の早期発見に努め、必要な処置を行います。

（4）中重度者ケア・健康管理に関すること

- ① 毎回血圧、脈拍、体温を測定し、毎月一回体重測定を行い、体調管理に努めます。
- ② 薬の管理、インシュリン注射や在宅酸素療法、褥瘡処置や排便等ご本人に必要な在宅での医療をつなぎます。

（5）排泄に関すること

プライバシーに配慮し、可能な限り同性介助を行います。

(6) 送迎に関すること

利用者の安全を第一に、負担のないよう効率的に送迎コースを設定し、可能な限り送迎時間の希望に応えます。

(7) 認知症ケアに関すること

認知症の方を医学的・心理的に理解し、学びを実践に結び付けます。

(8) レクリエーションに関すること

ご本人の状況や環境、生活歴等のアセスメントに基づき、希望や要望を踏まえ、生活課題や目標を共有し達成のためにプログラムを提供します。

(9) 業務改善に関すること

- ① 職員一人一人の意見や思いを反映した職場作りをします。
- ② 毎月1回職員会議では利用者の情報共有に努め、学習の機会を持ち、専門性を高めます。

(10) 地域活動

- ① 介護教室や講師活動等を通じて社会貢献となる地域活動を実践します。
- ② 地域で起きている事実や利用者の実態に向き合い、いのちと人権を守るために、求められる福祉と役割を考え、地域に根差した取り組みを実践します。

(11) 職員育成

人の人生に寄り添うことの尊さ、その中で専門職としてのあるべき姿を求める事で、仕事の質を高め、職員自身のやりがいにつなげます。

(12) 相談援助

- ① 利用者と介護者の意向を聴取し、課題解決に向けて他の専門職と協力しながら援助にあたります。
- ② 生活相談員としてのスキルアップを図ります。法人内に地域情勢を伝え、地域でのソーシャルワークを実践します。

第8節 小規模多機能ホームあかりの家 事業計画

1. 現状

利用者に寄り添ったきめ細かな柔軟なケアに地域の信頼が寄せられ、毎月紹介や問い合わせ、利用相談が寄せられるようになっていきます。また、職員体制も不安定な状況もありつつ、当面の目標の15名以上の登録利用（要介護3以上8名以上）の人員基準は確保することが出来ました。

この間、病院退院後や認知症の進行に伴い、小規模多機能の柔軟な対応への希望から登録利用の増がありました。

利用減では特養入所申し込み待ちの方の入所や自宅での転倒骨折による入院、看取り時期での誤嚥による入院後のご逝去等がありました。

4月以降1月までの利用増は7名ありましたが利用減も同じく7名でした。

利用者の高齢化や認知症の進行に伴い、今後の在宅生活に不安が見られる方もおられ、利用者数では不安定な状況もひきつづきあります。

職員会議を軸にした管理運営の改善と教育研修の強化、あかりの家通信の毎月発行と活用、音楽療法やレクの強化、医療との連携やリハビリ強化など事業計画の遂行に取り組んできました。

2. 利用者様の維持・改善を確信に

改めて法人理念と「あかりの家の福祉宣言」を全職員の目標として日々の介護のなかで確認実行し、利用者第一の実践で職員の意欲とチームとしての和を大切にし、下記の優位点も確信にしていきます。

＊あかりの家の優位点について

- ・ 個性（その人らしさ）に柔軟に対応できる、居心地の良さ、居場所がある
- ・ 寄り添う人がいる、なじみの関係の職員がいる
- ・ その人の尊厳を大切にその人を尊重、人生の物語にこころとおもいを寄せる
- ・ ゆっくりとその人のペースに合わせて待つ、できないことだけを手伝う

家族のおもいを理解し、支えとなって

- ・ 介護していることへの理解、悩みを常に聞く姿勢・体制
- ・ 柔軟な家族の介護負担軽減、休息への配慮
- ・ 24時間見守られているという安心感

3. 今年度の強化点

（1）職員体制と管理体制の改善整備および利用者確保の取り組み

- ・ 職員体制と管理体制を整え、利用者確保を進められる状況をつくってきました。引き続き利用者増（利用減を克服し増やす）を目標にし、まず15名到達を目指します。
- ・ 法人内の他事業所との緊密な連携と理解を深め、法人内での経験と知恵を集めます。こがねの里の拡大入退所判定委員会へのケアマネジャーの参加で利用者、申込者の情報共有と入所待ちの方への支援に施設の活用を促進します。
- ・ 改めて地域包括支援センター、居宅介護支援事業者、病院地域連携室、老人保健施設等への訪問活動を行います。
- ・ お試し利用（体験利用）の柔軟な受け入れを行います。
- ・ あかりの家通信の活用をさらに進めます。

（2）介護の充実と管理運営の改善

介護の充実の面については、福祉宣言を基に職員の意思統一、働きやすい職場作りを目指します。研修や学習会に参加する事で職員のスキルアップに努めます。

また利用者の個別性を重視して生活リハビリや外出行事を積極的に行い、豊かな生活の実現に努めます。リハビリについては専門職の指導とアドバイスで全体のレベルアップを目指します。医療との連携も重視し看護職員の日勤帯配置に努力していきます。

また、認知症ケアについて「否定・強制・断定・批判・しかる・上から目線の教える」対応でなく受容・共感で寄り添い穏やかに良い感情を残す対応を心がけていきます。ひきつづき軽作業をともにするケアや音楽療法、レクリエーションや作業などで周辺症状の軽減に努めます。

利用者さんとのコミュニケーションや見守りを大切に「～したい」の実現や人間尊重の寄り添う介護に努めます。利用者さんへの対応では「説得より納得を」大切にします。

家庭的な雰囲気の中かで「やさしい介護」を追求します。認知症や介護について専門性と科学性でとらえ、受容共感し、愛情を持って人間の尊厳を大切に深く理解することが大切です。

職員同士も尊重し合い、理解し合い、「いいとこさがし」とほめあいで、成長しあえる、職員にとってもいい職場にしていきます。

利用者や職員への感情的な物言いや態度は全体の雰囲気や認知症の周辺症状を悪化させます。専門職として感情のコントロールに努めます。

この間の職場診断アンケートを活かしコミュニケーションの改善や職場環境改善にもひきつづき努力していきます。

運営推進会議を活用しての外部評価等を活かし、改善策を実施し、介護の質の改善と事業整備、法的整備を進めます。介護サービス情報の公表も改善に活かします。

2017年度 事業計画・予算（利用登録数・実人数）

| 月日 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 2018 予算 | 12 名 | 12 名 | 13 名 | 13 名 | 14 名 | 14 名 | 14 名 | 15 名 | 15 名 | 15 名 | 16 名 | 16 名 |
| 2017 実績 | 12 名 | 11 名 | 11 名 | 11 名 | 12 名 | 12 名 | 13 名 | 14 名 | 13 名 | 12 名 | | |

（事業収益 月平均428万円 国庫補助金等取崩額なしで黒字にする）

第9節 高齢者生き生きグループリビングあやめの里 事業計画

1. 重点目標

- ① 一人暮らしで生活に不安や不便を抱える高齢者に対し、お互いの自主性を尊重した共同生活を送ると共に、高齢者が安心して安全に暮らせる環境を整えます
- ② 入居者の高齢に伴いさらに、法人在宅サービスとの連携を図り、あやめの里での

生活が安定し継続できるよう支援します。

- ③ あやめの里での生活が困難となられた入居者に対し、ご本人・家族の意向を考慮しながら、生活施設への移行を安心して頂けるよう法人高齢者事業との連携を図ります。
- ④ 限られた戸数で安定的な施設運営の継続には高い入居率の維持が欠かせません。早期の満室を目指しリーフレットの活用、地域等への案内活動を継続的に取り組みます。

2. 自治会運営

- ・ 共同生活を送るなかで、入居者の困りごとや気持ちよく生活を送るための決め事など、意見や検討の場とし生活の質向上につながるよう必要な支援を行います。
- ・ 社会保障制度の学習会や地域との交流の機会をもち、文化的で生きがいのある生活となるよう、入居者との話し合いの中で共同企画します。
- ・ 生活支援サービスにおいて入居者の評価や要望を聞きながら、よりよきサービスとなるよう検討します。また料金や必要経費などの情報開示を行います。

第10節 こがねの里入所部門事業計画

1. 重点目標

- ① 身体的・精神的・経済的事由等により他のサービスで対応できない高齢者のための施設として、早期にニーズに最大限応えられるよう計画的に受け入れを行います。
- ② 行き場のない高齢者を生み出すことのないよう機能・役割についての検討と対応を行うとともに法人内外の機関と連携を強めます。
- ③ 利用者の基本的人権と高齢者の尊厳を大切に、サービス種別に関わらず個別性を尊重した総合的な援助を目指し、実践の振り返り、学習・研修による専門性の向上に努め、他職種の連携と協同を強めます。生活相談員・居室担当を中心に、生活歴等本人情報の収集に努め、その方の人生を知り、その人らしさが継続できるよう支援します。定期的に、身体拘束廃止委員会やサービス担当者会議、ケアカンファレンスを開催します。
- ④ 地域の福祉水準の進展に寄与するとともに、災害時に役割を果たせるよう必要な整備を行うとともに、地域での活動に積極的に参加し情報発信と連携を強めます。

第11節 短期入所生活介護（ショートステイ）事業計画

1. 運営・援助目標

（1）地域ニーズに応えられるよう運営を行います

- ① 利用者・家族がより利用しやすいサービスの提供をめざし、送迎サービスなどス

ムーズに利用できる体制を整えます。

- ② 居室が最大限に活用できる方策を、引き続き検討します。希望状況に応じて居室の調整を行い、効率的に運営します。

(2) 利用希望に最大限に応えます。

- ① 特養ホームと一体的に運営している特長を最大限活用し、地域の要求に応えます。
- ② 利用者の状態や家族の事情等により緊急で希望があった場合も柔軟に対応し、可能な限り希望に応じていきます。
- ③ 重介護度、医療的なケアの必要性や看取り期の利用者の受け入れについてご本人、ご家族の希望に添い、医療機関、関係機関等との連携と連絡を密にして具体化します。
- ④ 利用可能な状況は関係機関・ご家族に、いつでも(365日)必要な情報提供(空き発生時)を行います。

(3) 関係部門、機関との連携を強化します。

- ① 利用者のサービス計画をケアマネジャーに提供し、その実施内容や利用中の様子、状態変化等について居宅介護支援事業所等に情報提供し、連携を強化します。
- ② 法人内サービス事業所との情報交換を行い、利用者のケアに活かせるよう努めます。

(4) 自宅環境に配慮し、安全に安心して利用できるようにします。

- ① 自宅環境を把握し、安心して利用できるよう居室の環境を整えます。初回利用後には、2～3日を目安にご家族に連絡をし、利用後の様子や次回利用に向けた要望の聴き取りを行い、利用中の様子と合わせて次回利用時に向けて話し合いを行います。
- ② 身体拘束は基本的には行わず、安全に過ごす事ができるよう環境を整備します。やむを得ず必要と判断した場合、ご本人、ご家族および各職種や関係機関と相談をし、最小限に留め実施します。また、実施状況は記録に整備し、都度排除に向けて必要性の有無を再検討します。
- ③ 認知症の方も安心して利用できるよう、家族や関係機関から情報を共有します。また、認知症ケアの技術向上を目指し研修を計画します。

(5) 余暇活動の提供を行います。

- ① 施設行事、調理レクは、特養と共にを行います。ユニット内で行えるレクリエーションについて、利用者の要望を聞き取り、随時企画します。
- ② 散歩・外気浴は気候に合わせて無理のない範囲で行います。

(6) 業務について見直しをします。

- ① 利用者の情報共有や、新規利用者の情報確認を定期的に行い、ケアの向上に努め

ます。また、利用者の情報を適切に提供できるように、定期的にあセスメントを実施し、実施内容を更新します。

- ② 月間予定・週間予定等ユニット間の連携において調整が必要な場合は、その都度検討し必要な時は変更を行います。
- ③ 忘れ物、紛失ゼロを引き続き目標にします。発生時には原因がどこにあるのかを追求し、同じ事を繰り返さないように努めます。
- ④ 送迎表の作成、入浴日の設定、居室運用等はマニュアルをもとに、担当者誰もが実施できるようにします。また、定期的に担当者を変更します。

第 1 2 節 特別養護老人ホーム 事業計画

1. 運営・援助目標

- ① 中重度の要介護認定の方の施設を基本としつつ、軽度認定の方で特段の事由がある方についても、その必要性を検討し、対応可能な制度を最大限活用して受け入れを検討します。早期に、全ユニットの再稼働を開始し、地域の方の要望に応えます。
- ② フロアカンファレンスやサービス担当者会議等での個別検討や学習会を開催し、安全な暮らしと人権や尊厳を併せて考える機会を持ちます。自立支援・重度化防止に取り組む取り組みを検討します。
- ③ 高齢者の尊厳が保持され、適切な介護・医療が提供され、緊急時に適切な医療へ繋がるよう関係機関との連携を行います。
- ④ 入居者の入院等によりやむを得ず居室が空く場合は、その期間に関わらずショートステイ利用者が利用できるような必要な措置を講じます。

(1) 食事・栄養ケアに関すること

- ① 安全に食事を食べてもらえるよう心身の状況のあセスメント・評価を行い、適切な形態、介助方法でサービスを提供します。
- ② 認知機能の低下や嚥下障害等から経口摂取に課題がある方も、家庭的な雰囲気です安全に食事を楽しめるよう介護の充実、医療機関との連携に努めます。
 - i) 多職種による食事あセスメントを行い、心身の状態や体調、ご本人の意向も含め、多くの選択肢の中から選べるよう提示し、介助方法等を検討します。
 - ii) ユニットリーダーを中心に、新規利用者や利用者間の関係性に応じて、席やテーブル配置を検討します。
 - iii) 入院中に病状から食事や栄養状態等が変わった場合も、適切に対応できるよう医療機関と情報を共有します。

(2) 排泄に関すること

定時の一斉介助ではなく、一人ひとりの生活に添った排泄介助を目指します。

快適で清潔な生活が送れるよう、フロアカンファレンスでオムツや下着の使用方

を見直し、一人ひとりの排泄パターンを把握するための具体的方法を探り、業務分担など必要な情報・環境を整えます。本人が持つ能力を最大限発揮できるよう、必要に応じて施設サービス担当者会議で検討します。

(3) 入浴・清潔保持・整容に関すること

- ① 入浴は、利用者が家庭的雰囲気を感じ、リラックスして入浴できるとともに、清潔保持とともに全身状態の確認の場でもあり、連携して処置にあたります。
- ② 皮膚疾患の悪化や褥瘡形成予防のため、室内湿度管理、適切な入浴、保湿剤使用など、利用者の状態と季節等に合わせて行います。
- ③ 効率的に入浴介助できるよう体制を検討します。

(4) 健康管理・重度化、ターミナルケアに関すること

- ① 利用者やご家族、地域住民が看取りについて考え、理解を深める事ができるよう、以下の取り組みを行います。
 - i) 看取りに関する事例検討・報告会等、職員だけでなく家族等との意見交換ができる機会を確保します。
 - ii) ターミナルケアの指針、各職種の役割、看取りの方への対応等の理解を深められるよう説明方法や資料を検討します。
 - iii) 利用者の安心と安楽を第一に、家族の思いや悩みにも寄り添う事ができるよう、医師からの状態説明の機会を確保すると共に、日常的な情報提供をこまめに行います。終末期のケアプランを作成し、適切な期間で評価を行います。
 - iv) 家族が心理的、社会的に孤立しないよう支援を行うとともに、振り返りの実施等により携わる職員の受け止めや課題について共通理解を深めます。
- ② 医療機関との連携を強め、適切な診察や入退院ができ、利用者や家族の様々な不安を軽減する事ができるよう、以下の事に取り組みます。
 - i) 病状説明等の必要性から、家族への情報提供は看護師で対応することを基本とし、家族の気持ちに配慮しながら行います。
 - ii) 協力病院との調整会議は定期的に開催します。
 - iii) スムーズな再入所に資するよう、入院外泊中の情報収集・退院時カンファレンス開催要請・出席を積極的行います。
 - iv) 長期入院外泊による利用者・家族の心身や経済的な負担軽減に努めます。
- ③ 体調やバイタルの変化に対して、早期に対応できるよう以下の事に取り組みます。
 - i) 日々の申し送りから必要な対応へ、必要に応じて施設サービス担当者会議へ繋がるように、申し送りの質を向上させ正確な情報共有を行います。
 - ii) 複数の職種が利用者の状況を直接確認して検討します。
 - iii) 記録様式の統一化等、各専門職種が効率的に統一して確認できるような情報共有の方法を検討します。
 - iv) 高齢者の特性や健康管理に関する学習を定期的に行い、リスクを予測してケアに当たる事ができるよう知識を深めます。

(5) 機能訓練、余暇、行事活動に関すること

- ① 利用者本人の希望や意向の実現のため社会参加できる機会を確保し、残存能力の活用や機能維持を目的に日常的に行えるリハビリを計画し、援助します。生きる意欲を持ち、長寿を喜べるようなお祝いを行います。
- ② 楽しみながら身体を動かし、気分転換の機会となる日常的な少人数での余暇活動等年間行事以外にも、随時、利用者の要望を鑑み、ユニットやフロア単位でのレク等を企画します。

(6) 設備・環境整備に関すること

- ① 重大な事故の発生防止等の観点から、生活支援に必要な器具・福祉用具・設備は適切に取り扱います。
- ② 設備・機器は丁寧に大切に取り扱い、不注意による破損をなくし無駄な費用支出を削減します。
- ③ 居室はプライベートなスペースであり、共有部との区別を行います。所有分(家具・衣類)は財産であり、礼儀をもって取り扱います。
- ④ 必要な整理・整頓・物品の管理は介護職員が中心となってい、気持ちよく生活してもらえるよう努めます。また、故障や所有者が不明な物は、早期に修理や探索する等の対応を行います。

(7) 業務改善に関すること

- ① よりよいコミュニケーションを図るため、明るく気持ちよい挨拶を心がけます。業務中の私語や不要な大声等、生活の場にふさわしくない言動は慎みます。
- ② 全体だけでなく、各フロアやユニットにおいて、改善すべき課題、サービスの質の向上を目的に対象者(利用者)、事業・経営目標、職員・職場への3つの効果を意識し、業務改善に引き続き取り組みます。
- ③ 職員会議を軸に、専門的知識や技術の向上を目指し、内部研修の充実に努めます。

(8) 入所待機者への対応と地域ニーズの把握

- ① 入所待機者への対応について以下の項目を行います。
 - i) 他職種・他部門等の参加による入所判定会議を開催し、緊急性・必要性・個別性・公平性・地域性を評価し入所者を決定します。
 - ii) 限られた社会資源(居室)を効率的に活用するため入所判定会議は定期的開催し情報共有と発信に努めます。
 - iii) 特例入所対象者となる既入所申込者も含め、待機者・家族の方の現況を知り、迅速に入所できるよう援助を行います。
- ② 申込み時・相談の際には社会資源や諸制度を最大限活用し支援できるよう学習・研修をし、専門性を高めます。潜在的なニーズも含めた地域ニーズをより把握するため、待機者の訪問相談活動を行います。